

対局に位置する トランプとレーガン

拓殖大学海外事情研究所教授

名越 健郎



Kenro Nagoshi

第45代米大統領に就任したドナルド・トランプ氏は、相変わらず「アメリカ・ファースト」という排外主義的なスローガンを掲げ、孤立主義と白人労働者迎合主義を煽っている。正式就任後はそれまでの暴言を避け、大統領らしく振る舞い、現実主義路線に戻るのではとの期待があったが、就任演説や当初の施政を見る限り、その期待は裏切られた。ここでは、不安なトランプ外交の陥穽を探った。

人格、資質で圧倒的格差

トランプ大統領は国民的人気を誇ったレーガン元大統領をモデルにしているとされる。米国でも、2人の大統領を比較する見方があり、共通点も少なくない。

2人とも共和党主流派に対抗し、ワシントンのアウトサイダーを売りにしてきた。レーガン氏は元ハリウッド俳優であり、トランプ氏もテレビ司会者を長年務め、映画・テレビ産業にかかわってきた。ともに、反既成政治を掲げ、産業振興、規制緩和を主張。白人労働者層の圧倒的支持を得て当選した。

レーガン氏のスローガンの一つは「Let's Make America Great Again」だったが、トランプ氏のスローガンも「Make America Great Again」だ。これはむしろ、トランプ氏のパクリだろう。

国を「為替操作国」と非難した。

第6に、レーガン氏は雄弁でユーモアに富んだ演説能力を持ち、「グレート・コミュニケーター」と呼ばれて「国父」のような存在感があった。これに対し、トランプ氏は不法移民、少数派（マイノリティ）、女性、身体障害者などに対する侮蔑的かつ品位を欠く発言を繰り返し、就任前の記者会見でも説明責任を果たそうとせず、都合の悪い質問をする記者を「偽ニュース機関だ」と糾弾した。

このように、レーガン氏とトランプ氏は人格、資質、能力などあらゆる点で異なる。トランプ氏が就任すれば、レーガン氏のように大化けするのは、と一部の期待は、就任当初を見る限り幻想だった。

キッシンジャー外交採用か

トランプ外交はまだ不透明ながら、これまでの言動を見る限り、①グローバル化に否定的②世界の紛争への不介入③同盟国への防衛意識が希薄④貿易摩擦を抱える中国に敵しく、ロシアに甘い⑤大国を重視し、小国への関心が希薄⑥ビジネスマンとして「取引外交」を重視⑦米国の経済的利益を最優先⑧人権問題や環境、国際法への認識が希薄といった特徴が挙げられる。

トランプ氏は、既存の政治指導者が「他国の国境を守り、自国の国境を守らなかつた」「他国を豊かにし、自国の富と強さをないがしろにした」と非難し、「アメリカ・ファースト」というナショナリスティックなメッセージを示す。単独超大国・米国の大統領が排外主義とナショナリズムを推進すれば、グローバル化の波が後退し、国際秩序が混乱しかねない。

こうしたトランプ外交は、ロシアのプーチン大統領にとって

だが、両者にはむしろ違いの方が大きく、指導者として対局に位置する。第1に、レーガン氏は共和党主流派と協調し、共和党の有力専門家を政権に招いて重厚な布陣を敷いた。トランプ氏は主流派を毛嫌いし、政権には選挙戦で自らを支持したイエスマンや義理の息子らを据えている。

第2に、レーガン氏は家族の価値や人工中絶反対、自由・民主主義の擁護など米保守派の価値観を分かりやすく説き、民主党議員らも味方に付けた。トランプ氏の就任演説は、理念もなく、国際社会における米国の役割や指導力にほとんど触れなかった。

第3に、レーガン氏は同盟国との連携を重視した上で国際問題の解決に着手。旧ソ連との交渉では予想外の柔軟性を発揮して冷戦終結に持ち込んだ。トランプ氏は同盟国の安売ただ乗りを批判。北大西洋条約機構(NATO)を「時代遅れの組織」と酷評し、「世界の警察官」をあっさり放棄した。

第4に、レーガン氏はカリフォルニア州知事を2期8年務め、政治経験が豊富だったが、トランプ氏は公職も軍職も経験したことがない。

第5に、通商政策でレーガン氏が自由貿易を推進し、米国の貿易赤字膨張を容認したのに対し、トランプ氏は保護貿易主義を貫き、環太平洋経済連携協定(TPP)からの離脱を決定。中

は思う壺だろう。プーチン大統領はトランプ氏を「有能な指導者」と称え、「米露戦略関係の安定」が重要とし、早期の公式首脳会談開催を働きかけている。オバマ大統領との間では一度も公式会談を行わなかったが、同盟国軽視のトランプ外交は望むところだ。

トランプ氏はロシアによるウクライナ領クリミア併合を容認し、対露制裁を解除する意向も示している。レーガン氏がかつてアフガニスタンに侵攻したソ連を「悪の帝国」と呼んでソ連封じ込めを強めたこととは対極のアプローチだろう。

外交素人のトランプ氏の外交指南役が93歳のキッシンジャー元国務長官であり、これまで何度か会談し、外交問題をレクチャーしている。実業家のティラーソン前エクソンモービル会長を国務長官に指名したのも、キッシンジャー氏のアドバイスだった。

同氏はニクソン政権時代、米中接近を演出し、中国を取り込んでソ連と対抗する戦略を推進した。しかし、現在はロシアと手を結び、中国を孤立させる戦略を画策しているという。トランプ大統領はキッシンジャー流忍術者外交で米露接近を図るかもしれない。

ただし、政権の陣容が整うまでに相当の時間がかかりそうだ。新大統領は約4000人の有能な人材を政府高官ポストに就かせねばならないが、その人選が大幅に遅れているためだ。トランプ大統領は共和党内の反トランプ派専門家を排除しており、有能な人材は集まりそうもない。外交安保分野の体制が整うのに1年を要するとの見方もある。政治空白が長引く中、トランプ外交の前途は多難だろう。

(2月1日)